サビエル生誕五百年

巡礼の道 560

藤屋 侃士
(下松市幸ケ丘)

「世界で最悪の眺め」のホテル
～パレスチナは今（1）

パレスチナを最初に訪れたのは四十三年前の一九七四年、ヨーロッパ巡礼の途中、聖地エルサレムを訪れた時である。二度目は予期せぬ出来事で一九九六年に訪れた。

長女がNGO活動でパレスチナの貧しい母子の保健プロジェクトのスタッフになり、一九九五年から現地に住むことになる。娘から赤ちゃんのために布オムツがほしいという手紙が届く。紙オムツを乾かして何度も使い、水ぶくれになっている赤ちゃんが多いらしい。

知人の新聞記者がこのことを新聞で紹介したところ、我が家に大量のオムツが届く。

これを現地に持参したのが一九九六年。以来、娘を通じて紛争によるトラウマを抱えた子供たちの学校を支援することとなり、細々とではあるが今も関係を持ち続けている。

半世紀を超えるパレスチナ紛争は今も解決していない。なぜこのような紛争が起こったかも忘れられている。

第二次世界大戦後の一九四八年、国連の決議によりパレスチナを分割し、ユダヤ人の国、イスラエルが建国される。しかしこの地は二千年近くパレスチナ人が住んでおり、分割を認めないアラブ諸国、パレスチナ人との間で戦争となる。いわゆる中東戦争だ。

結局、イスラエル側が勝利し、その後、パレスチナ自治区が認められたが、根本的には何も解決していない。

二〇〇〇年に入ると、イスラエルはテロを口実に一方的にパレスチナ自治区との間に分離壁を建設する。高さ八㍍のコンクリートの壁。力関係ではどうすることもできないパレスチナ人はこの壁に抵抗の落書きをしている。

一昨年、二十年振りに娘の案内でパレスチナを旅し、分離壁を見た。国連でも非難決議がなされ、国際司法裁判所も国際法に反するとするも、分離壁は厳然と存在している。

今年三月、分離壁のパレスチナ側の壁沿いにホテルが建設されたというニュースが流れた。ロンドンを中心に活動する覆面芸術家、バンクシーが建設したという。

この人物を全く知らなかったので調べてみると、社会風刺的なストリートアーチストとして有名らしい。世界各地にゲリラ的に描き、イスラエルが建設した壁にも九枚の壁画を描いている。制作中、イスラエル兵が何度も銃を向けて中止させようとしたが、すべて完成させている。

その彼が分離壁しか見えない「世界で最悪の眺めのホテル」を建設したというのだ。忘れられがちなパレスチナ問題、イスラエルへの抗議を込めてつくられたホテル。ぜひ一度泊まってみたいと娘に言うと、八月末にパレスチナに行くので、そのホテルに泊まって写真を撮って来ると言う。

先日、写真が届いたが、娘はすぐに学生を連れてイギリスに旅立ったので、パレスチナの話は聞いていない。イギリス滞在は二週間というので、せめて写真だけでも早く巡礼記に掲載することにした。スクープ写真を入手したような気分なのである。

分離壁の前に建つホテル

テラスから見えるのも分離壁だけ

なぜかベルボーイはチンパンジー